

Title	三田哲學會記事
Sub Title	
Author	
Publisher	三田哲學會
Publication year	1935
Jtitle	哲學 No.14 (1935. 8)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000014-0162

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

三田哲學會記事

○昭和十年四月二十四日(水)午後三時銀座交詢社に於いて例會 出席者二十六名。

ケルシェンシュタイネルとガウディヒとの論争再検討……………小林澄兄君
ガウディヒとの論争に關聯して、主としてケルシェンシュタイネルの從來の被教育者の受動を要求する主知主義に對して、その自己活動を重んずる勞作教育思想を解説し、ケルシェンシュタイネルの主張する勤勞は單に身體的作業に限られたるものに非す、この點精神主義の實踐家なるガウディヒの反對は寧ろ彼の理論の誤解に基づくと結論された。

○同五月二十四日(水)午後三時銀座交詢社に於いて例會

Sein と Sollen の問題……………川合貞一君

現代日本の法學に多大の影響を及ぼせるケルゼン法理學の基く哲學的態度たるザインとゾルレンを峻別分離する新カント派的傾向が現代哲學の發展から見れば、寧ろ過去に屬するものなることザインの中にゾルレンを見ると云ふ態度を、本質論觀を説く現象學との關聯に於いて種々解説し又この態度の現代に必要なる所以のものを解明された。

尙例會後馬場先門「マーブル」に於いて哲學科新入生歡迎會開催、出席者三十名。

○同六月五日(水)午後二時日吉消費組合食堂に於いて豫科生の爲三田哲學懇話會、出席者百名にて盛會。
哲學に就いて……………川合貞一君

文化の反省としての哲學の用とは所謂「無用の用」なりとし法律學、社會學、心理學、經濟學等の特殊科學との關聯を順次解説し、その特異なる使命を高調された。

○同六月二十六日(水)午後三時銀座交詢社に於いて例會、出席者二十八人。

文化社會學の根本問題……………新館正國君

人種學の發展に伴ひ心理主義よりの解放としてのアメリカに於ける文化社會學の發生にふれつゝも、抽象的形式的社會學の大戰後の反動たるドイツの社會學、特にアルフレッド・ヴューバーの所説を主として解説された。人類進歩を單一文化の段階とみず、數多文化の繼起併存とみ、かかる歴史現實の所與分析に出發する點で同感なるも、尙本質的なるものの圖式が未だ不分明なりと結論さる。殊に根本現象としての三過程を分類する規準となる「現象の內在的超越者」なるものの哲學的意味について種々議論があつた。